

「令和7年 第54回 練馬区軟式少年野球連盟・現役戦大会」

競技上及び審判上の注意事項

1. **先攻後攻**は、両チームの主将がジャンケンで決め、**ベンチ**は抽選番号の若いチームが一塁側とする。
※但し、決勝戦は、先攻後攻は両チームの主将がジャンケンで決め、ベンチは先攻が三塁側、後攻が一塁側とする。
2. **チームの集合**は、試合開始予定時間**30分**前とし、大会本部へ**選手登録名簿（原本）**とメンバー表4枚（直筆1枚[本部用]、と複写3枚[球審及び対戦チーム、自チーム用]）を提出する。開始予定時間に集合しないチームは、不戦敗とする。（登録選手が9名に満たない場合も同様である。）
※二試合目以降の場合、前試合の本部で受取をし、先攻後攻はその時点で決める、（メンバー表のチェックは当該試合本部で行う）
3. **シートノック**は行わない。
・前試合一時間経過後から、バッテリー組とコーチ一名でピッチング練習を可能とする。
（場所については、審判員の指示に従う。総合グラウンドの場合はC面。）
・前試合終了後、**10分**後を目処に当該試合を開始する。（その間にアップ、キャッチボールをする）
※但し、決勝戦は、シートノックを後攻チームから5分行う。
4. **準備投球**
初回に限り1分を限度として5球以内、次回からは3球以内とする。
5. **イニング**
試合は6イニングとし、**1時間30分**を越えて新しいイニングに入らない。
6. **特別延長戦（タイブレーク方式）**
試合終了時点で同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決する。再び同点の場合は、最大2回まで繰り返す。なおかつ勝敗が決しない場合は、両チームの最終メンバーによる抽選で決する。
※但し、決勝戦については、再び同点の場合、勝敗が決するまで繰り返す。（上限時間は2時間30分とする）
【タイブレーク方式】無死一塁二塁、継続打順で行う。
7. **コールドゲーム**
得点差によるコールドゲームは、3回終了時12点差、4回10点差、5回以降7点差とし、降雨・日没は、5回終了で成立とする。
※但し、決勝戦は得点差によるコールドゲームは適用しない。また、ノーゲームとなった時は再試合とする。
8. 背番号は選手0～99番（主将は10番、27番～30番を除く）、監督30番、コーチ29、28番に統一する。登録はすべて男女を問わず、選手登録は10名以上25名以内とする。（30番～28番が不在の際27番を認める）
9. 試合中にベンチに入れる大人は、監督・コーチ2名・スコアラーと救護要員2名計6名以内とする。
10. 服装については、監督・コーチ・選手は統一のユニフォームを着用する。スコアラーはスポーティーな私服とし、必ずチーム統一の帽子を着帽すること。
11. 抗議のできるものは、監督と当該プレーヤーとし、グラウンド内での指示は監督が行う。
12. **投手の投球数制限**
一人一日70球以内（6、5年生）とし、70球に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。ただし4年生は60球とする。
※70球（又は60球）以内であれば他の守備についても再び投手に戻ることができることとする。
13. 打者・走者・次打者・ベースコーチは、両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。
14. 捕手のマスク及び金属・ハイコンバットは、JSBBのマークの入ったものを使用すること。
15. 捕手は危険防止のため、レガーズ・プロテクター・マスク・ヘルメット・ファールカップを着用すること。
準備投球時（代理）にもレガーズ・プロテクター・マスク・ヘルメットを着用すること。
※但し、指導者はマスクのみとする。
16. 投手が変化球を投げることを禁止する。ペナルティーは「競技者必携」を参考とする。
17. 原則として全日本軟式野球連盟規定の「野球規則」を準用する。
18. グランドルールは主催連盟（練馬区軟式少年野球連盟）審判部の指示に従う。
19. スポーツマンシップに則り、投手が投手板に触れて投球位置についたら投手の動揺を誘う声を発しない。